

苫小牧の近代工業のはじまり

かいたくし びび しかにく かんづめ せいぞうしょ あと

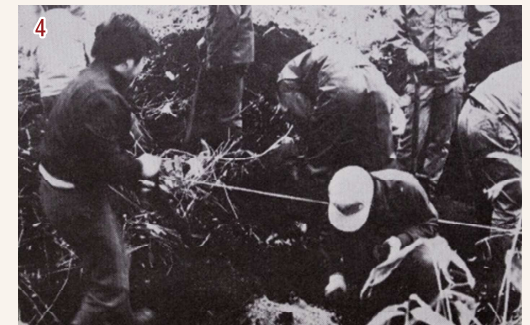
⑫ 開拓使美々鹿肉缶詰製造所跡

所在地：苫小牧市字美沢 134 番地



開拓使は北海道の産業振興を図るため、ビール、味噌や醤油、紙、缶詰など全道各地に工場をつくるなどの事業を行いました。美々鹿肉缶詰製造所もその一つです。

美々鹿肉缶詰製造所では、日本で初めて本格的な鹿肉缶詰の生産をした石狩缶詰所の経験を生かし鹿肉の缶詰を製造するため、明治 11 (1878) 年 10 月にもともとあった缶詰製造所の設備を増築し、翌年には、倉庫や従業員が休むための小屋を建て、鹿肉缶詰製造所の本格的な操業に入ります。さらに、11 月には缶詰製造所の設備をさらに増設し、その運営も軌道に乗っていきました。



明治 11 (1878) 年の缶詰生産数は 76,313 缶、生産額 7,106 円余を生産し、国内外の評価も高まります。ところが、エゾシカのむやみな狩猟に加え、翌年 1 月から 2 月にかけての全道的にまれにみる大雪と降雨のため、10 万頭におよぶエゾシカが餓死し、生息数が減少します。原料となるエゾシカを失った製造所は生産が困難となり収益が減りました。こうしたエゾシカの生息数の減少が決定的打撃となり、同 13 (1880) 年には製造を中止。同 15 (1882) 年、製造所は再び引き継ぎましたが、もはや復活する見込みはないとして同 17 (1884) 年 6 月 12 日に廃止となりました。

製造所の建物設備は明治 16 (1883) 年 1 月、苫小牧村にてホッキ貝製造用として 3 棟 9 円で売却、その後建物、土地ともに民間に売られました。わずかな操業期間ではありましたが、産業振興のため近代工業を取り入れた跡がこの地にあり、苫小牧の近代化に関する歴史を物語る場所となっています。

写真の解説

- ① 明治 12 (1879) 年頃の美々鹿肉缶詰市製造所外観 (北海道大学蔵)
- ② 鹿肉缶詰のレプリカ (苫小牧市美術博物館蔵)
- ③ 明治 10 (1877) 年頃の開拓使石狩缶詰製造所内部の写真。美々鹿肉缶詰製造所と同時期に稼働していた (北海道大学蔵)
- ④ 昭和 49 (1974) 年に行われた発掘調査の様子
- ⑤ 現在の製造所跡の様子